

Change and Innovation ~ with the Power of Chemistry ~

個人投資家向け 会社説明会

2024年12月26日

住友化学株式会社

証券コード：4005

(東京証券取引所プライム市場)

01

会社概要

02

業績動向

03

持続的な成長に向けて

04

当社の注目事業

05

終わりに

Change and Innovation ~ with the **Power** of Chemistry ~

01

会社概要

住友の事業精神

自利利他 公私一如

(じりりた こうしいちによ)



住友政友像

事業は自ら利益を得るものであるとともに、
社会に対しても利益あるものでなければならない

住友化学の始まり

1913年、銅の製錬による煙害の防止を目的にした肥料の製造から事業の歩みを開始しました。環境問題の克服と農産物の増産を両立させる取り組みを起源とする当社には、住友の事業精神が深く根付いています。





社長

岩田 圭一

本社

東京本社 (東京都中央区)
大阪本社 (大阪市中央区)

創業

1913年

従業員*

32,161人

関係会社*

連結子会社 184社
持分法適用関連会社 28社上場
取引所プライム市場
(証券コード：4005)

業態

化学

業績
(連結)*売上収益 24,469億円
コア営業損失 △1,490億円
最終損失 △3,118億円

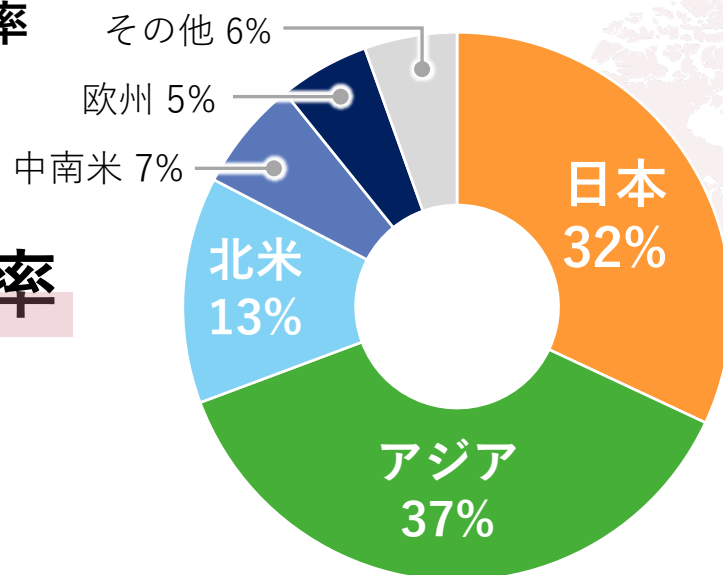
*2023年度、または2024年3月末

地域別売上収益比率

2023年度

海外売上比率

68.0%



1916 1920 1930 1940 1950 1960 1970 1980 1990 2000 2010 2020

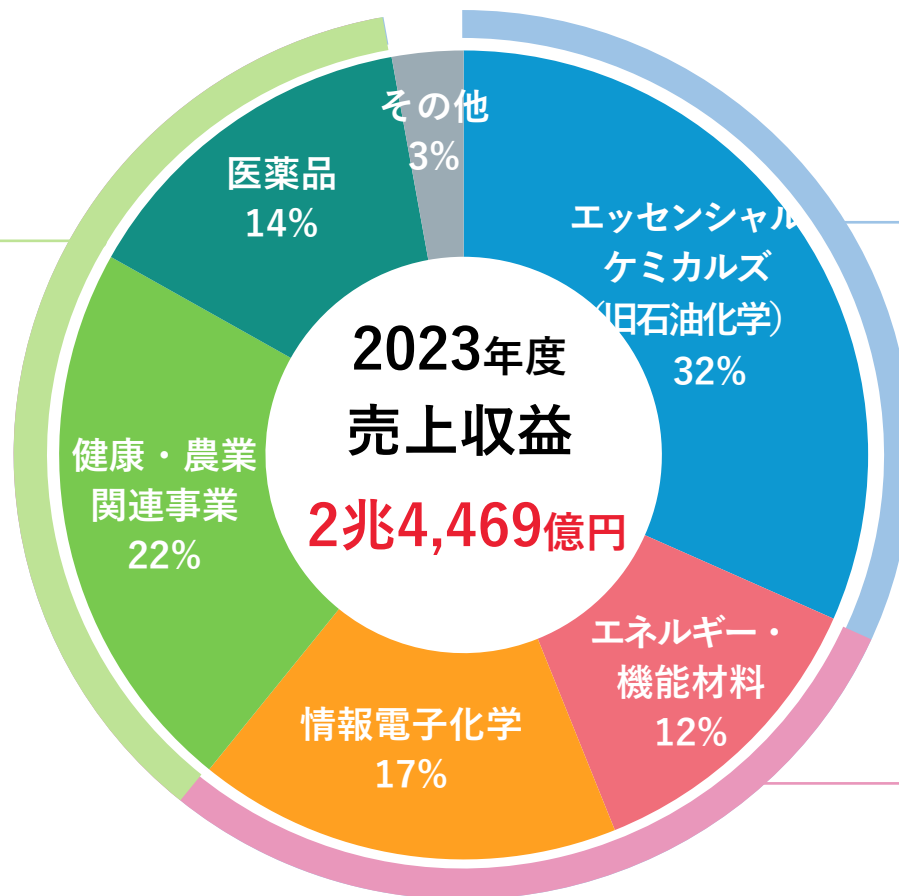
(連単) 1978年度以降：連結 1977年以前：単独

ライフサイエンス

医療用医薬品



農業用殺菌剤・殺虫剤

エッセンシャルケミカルズ
(旧石油化学)

ポリエチレンなどの
多様な石油化学製品

高機能材料

電池材料
(セパレータ)



ディスプレイ
関連部材

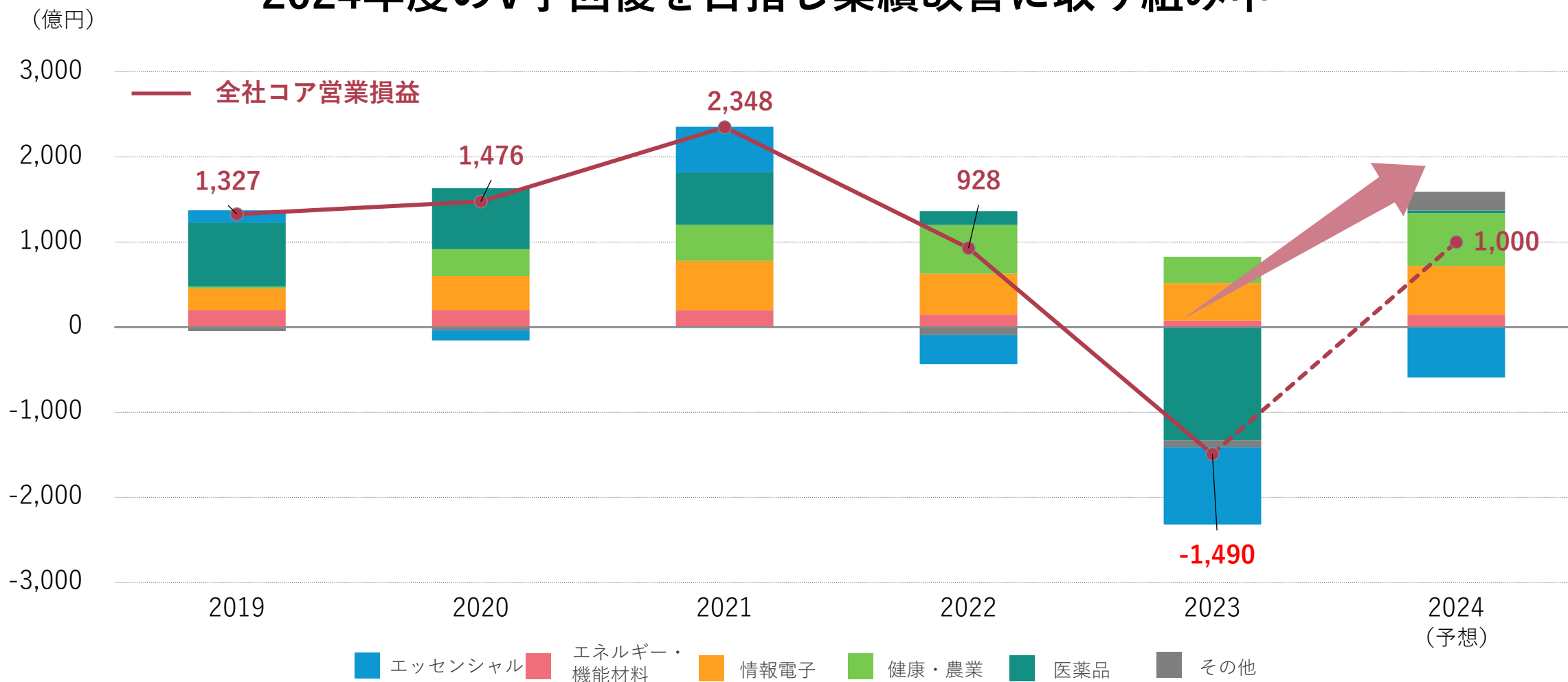


Change and Innovation ~ with the **Power** of Chemistry ~

02

業績動向

エッセンシャルケミカルズ、医薬品を中心に業績が低迷 2024年度のV字回復を目指し業績改善に取り組み中



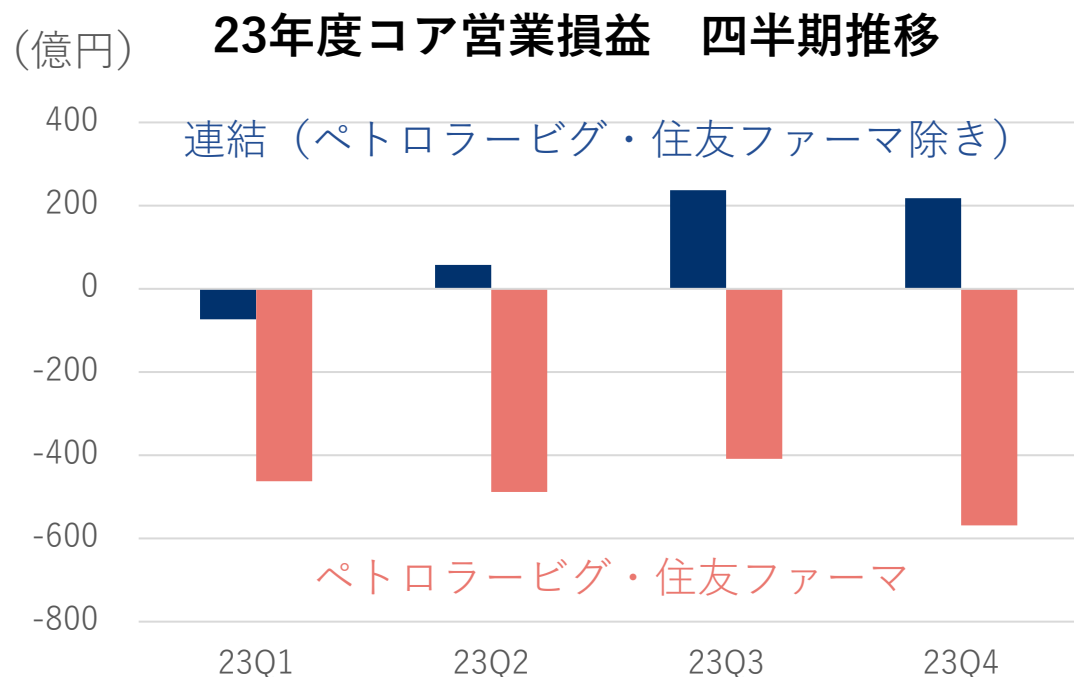
ペトロラービグ、住友ファーマの業績悪化が全体の利益を押し下げ

ペトロラービグ社の低迷

主力剤ラツータ独占販売期間の終了

中国新增設による需給悪化 + 歴史的に低い市況

約2,000億円の売上の喪失 + 後継剤の育成遅れ

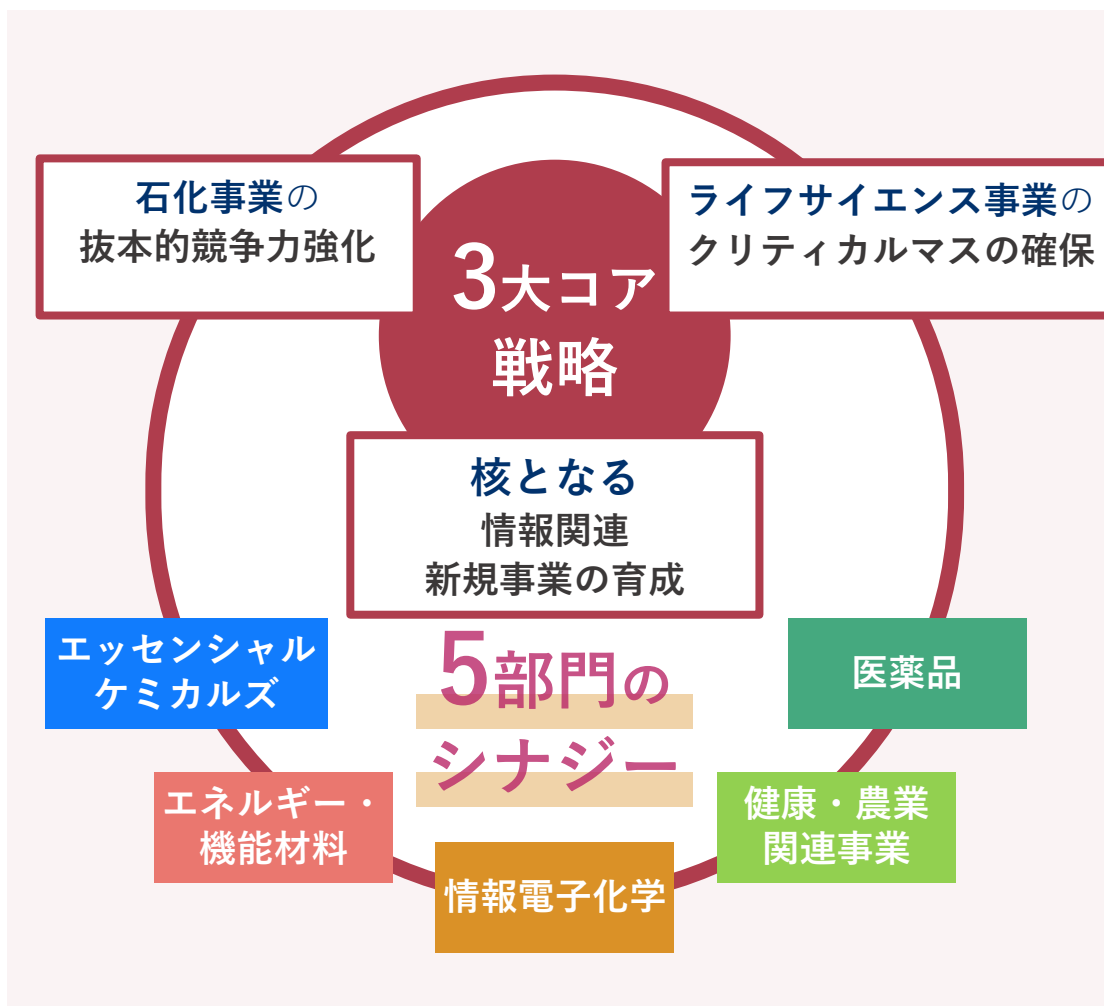


ICT関連・農業関連中心に回復
一段の業容拡大へ



ペトロラービグ・住友ファーマは
最大の経営課題。

5事業部門をエンジンとした成長モデルは、内的・外的要因により限界を迎えている



外的要因



技術のコモディティ化の加速



中国での大型プラント新增設



新薬の開発難易度上昇

内的要因



多角化経営による経営資源の分散



医薬品での目利き・開発力の不足



成長ドライバーの競争力不足

Change and Innovation ~ with the **Power** of Chemistry ~

03

持続的な成長に向けて

まずはV字回復必達。その後は、財務基盤の強化とともに再成長軌道へ回帰。

短期集中業績改善策

新しい成長モデルの構築

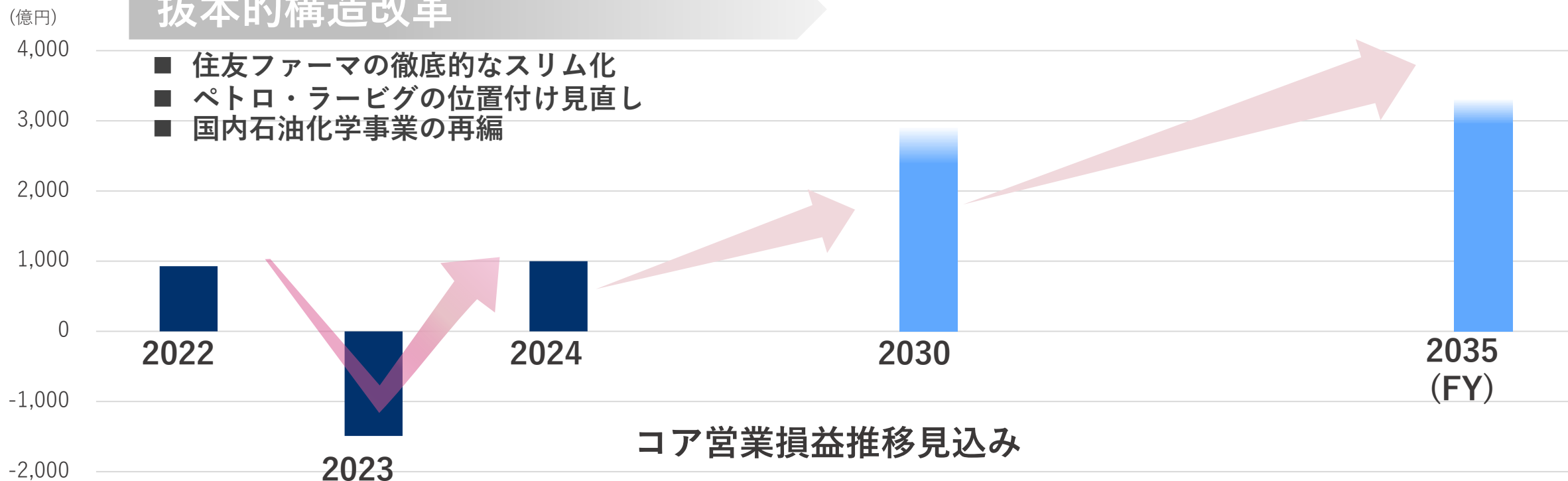
- 農業関連とICT関連へ経営資源集中
- 財務基盤の強化

さらなる成長へ

- 環境負荷低減型事業の社会実装(農業含む)
- 再生・細胞医薬事業の本格展開

抜本的構造改革

- 住友ファーマの徹底的なスリム化
- ペトロ・ラービグの位置付け見直し
- 国内石油化学事業の再編



① まずはV字回復必達。

短期集中業績改善策

その後は、財務基盤の強化とともに再成長軌道へ回帰。

新しい成長モデルの構築

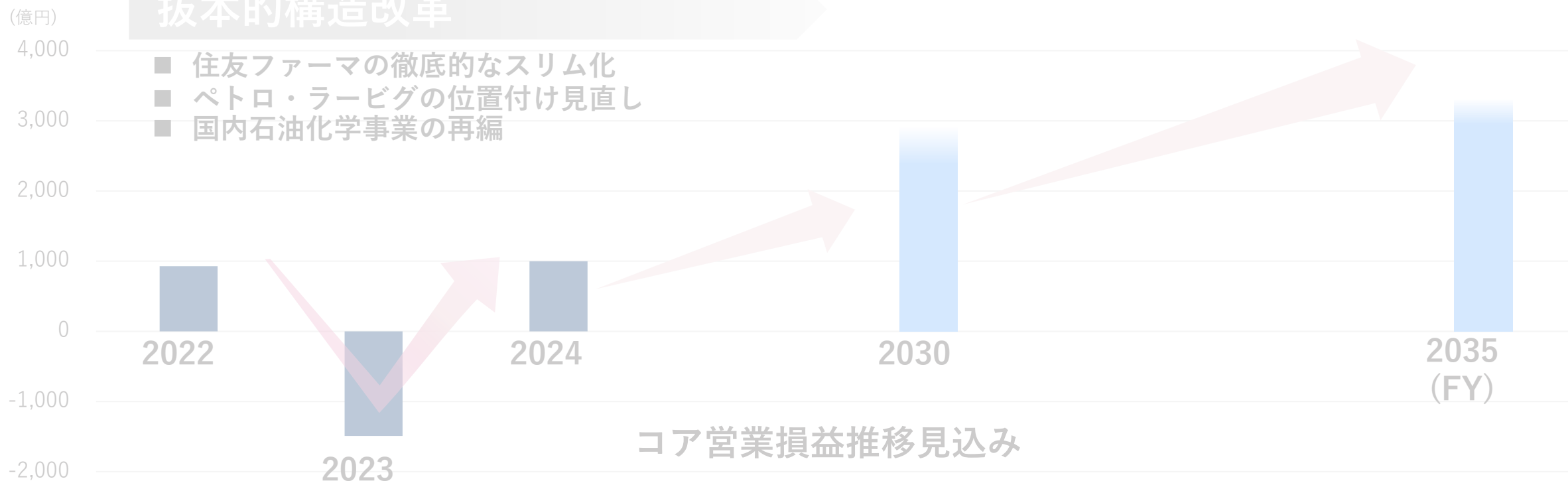
- 農業関連とICT関連へ経営資源集中
- 財務基盤の強化

さらなる成長へ

- 環境負荷低減型事業の社会実装(農業含む)
- 再生・細胞医薬事業の本格展開

抜本的構造改革

- 住友ファーマの徹底的なスリム化
- ペトロ・ラービグの位置付け見直し
- 国内石油化学事業の再編



短期集中業績改善策

約**7,000億円**のキャッシュ創出 (2024年度末まで)



事業再構築



キャッシュ創出**1,850億円**



在庫削減



23年度上期末から約**1,500億円+ α** 削減



投資厳選

(キャッシュベース)



成長分野には集中投資も、**2,000億円+ α** 捻出



資産売却・余資活用



政策保有株式・その他資産の売却や、
余資活用等で、**1,680億円**捻出

まずはV字回復必達。その後は、財務基盤の強化とともに再成長軌道へ回帰。

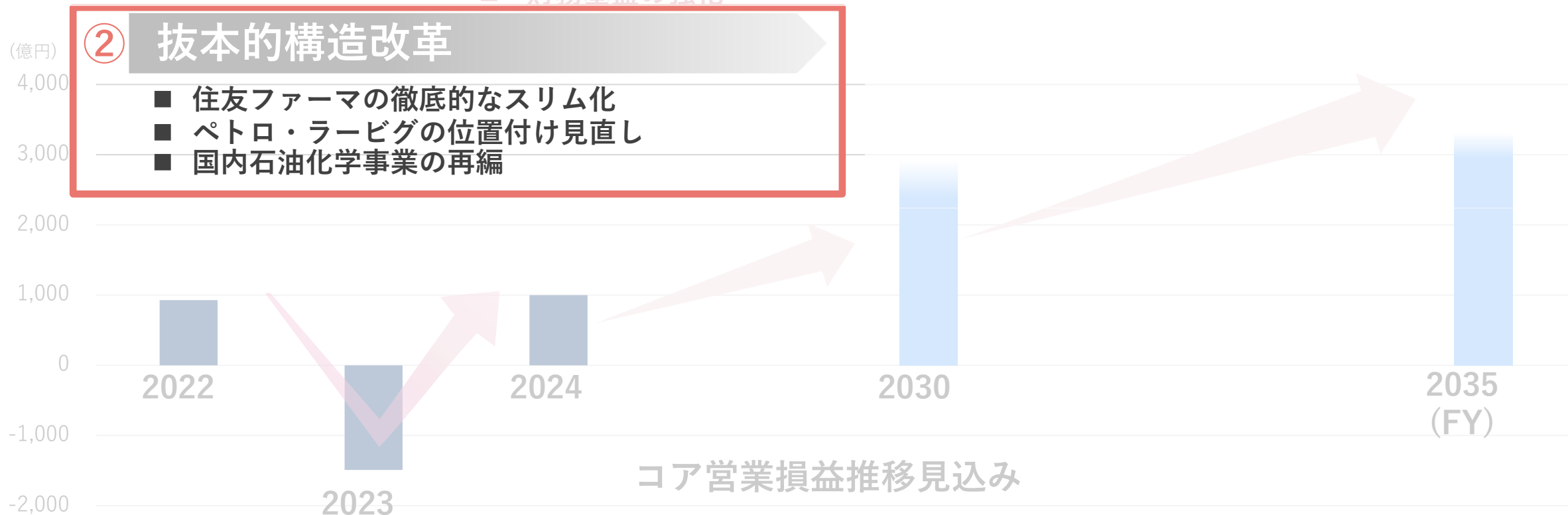
短期集中業績改善策

新しい成長モデルの構築

- 農業関連とICT関連へ経営資源集中
- 財務基盤の強化

さらなる成長へ

- 環境負荷低減型事業の社会実装(農業含む)
- 再生・細胞医薬事業の本格展開



② 抜本的構造改革

住友ファーマ

止血

グループ体

再成長

✓ 徹底した販管費・研究開発費の合理化

当社としての対応

- 外部専門家等の知見活用、合理化支援
- 経営人材派遣等によるガバナンス強化
- 債務保証による金融支援

同時

- ✓ 基幹 3 製品の最大限の拡販
- ✓ がん領域 2 品目の開発加速
- ✓ 再生・細胞医薬の一体運営

ベストな成長モデルの追求

石化事業

ペโตรラービグ

- ✓ 資本構成の変更（当社持分率 37.5% → 15.0%）

国内

- ✓ 既存エチレンプラントの合理化
- ✓ ポリオレフィンにおける企業連携検討加速

シンガポール

- ✓ 親会社参画による構造改革会議体設立
- ✓ 収益力改善に向けたプログラム着手

まずはV字回復必達。その後は、財務基盤の強化とともに再成長軌道へ回帰。

短期集中業績改善策

③

新しい成長モデルの構築

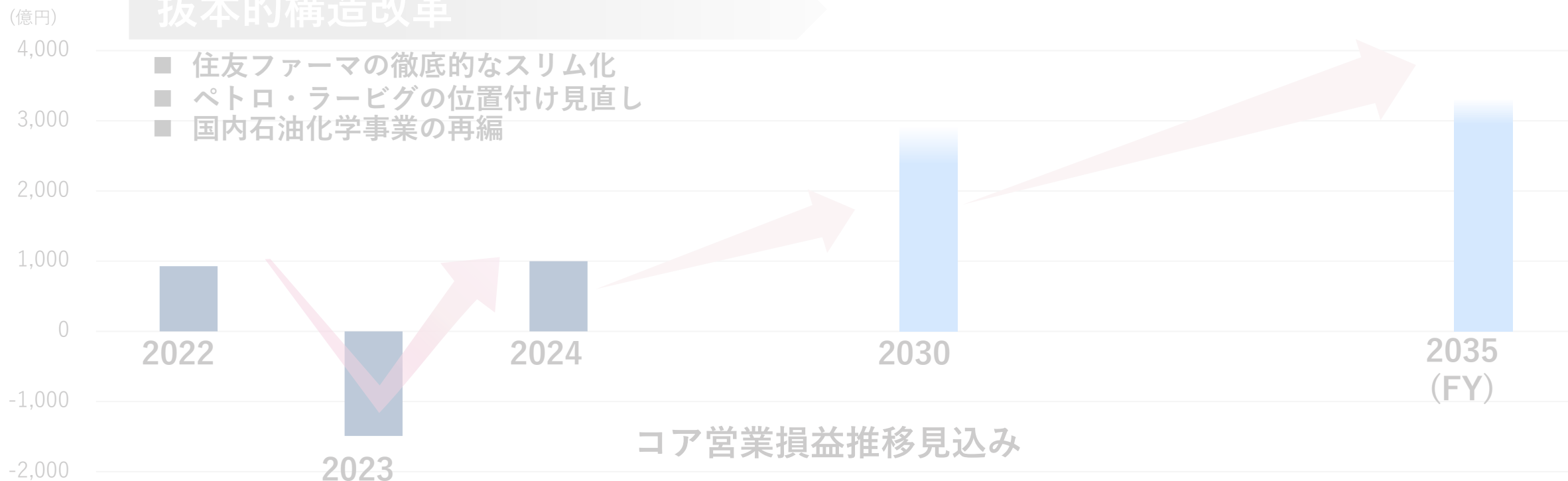
- 農業関連とICT関連へ経営資源集中
- 財務基盤の強化

さらなる成長へ

- 環境負荷低減型事業の社会実装(農業含む)
- 再生・細胞医薬事業の本格展開

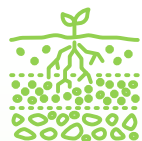
抜本的構造改革

- 住友ファーマの徹底的なスリム化
- ペトロ・ラービグの位置付け見直し
- 国内石油化学事業の再編



③新成長モデル構築(4つの社会課題)

社会課題の解決を通じて、当社が存在感のある企業であり続けるために。



食糧



- 食糧の安定確保
- 持続可能な農業



ICT



- デジタル技術の重要性加速
- サプライチェーンの強靱化



ヘルスケア



- 健康的な生活の確保
- 先端医療等の市場拡大



環境



- 気候変動問題の深刻化
- 生態系維持の重要性増加

Innovative Solution Provider

社会課題をイノベーティブな技術で解決する企業



食糧

リジェネラティブ農業の実現

- 化学農薬
- バイオラショナル
(天然物由来)

アグロ&ライフ
ソリューション



ICT

情報技術の革新

- 有機ELディスプレイ
- 先端半導体材料
- 半導体用ケミカル

ICT&モビリティ
ソリューション



ヘルスケア

先端医療の普及

- 再生・細胞医薬
- 長鎖核酸(ガイドRNA)

アドバンストメディカル
ソリューション



環境

環境負荷低減社会の実現

- ケミカルリサイクル
- マテリアル
リサイクル



エッセンシャル&グリーン
マテリアルズ

Solutionを支える主な技術・製品群

新たな価値を生み出す重要アセット

G X

グリーン

D X

デジタル

B X

バイオ

再編前

セグメントおよび主な事業



再編後

新セグメント



アグロ&ライフソリューション

農業用殺菌剤・殺虫剤

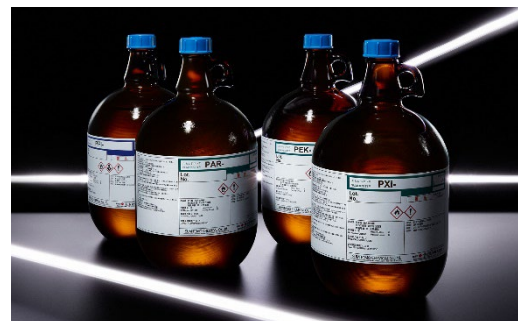


飼料添加物

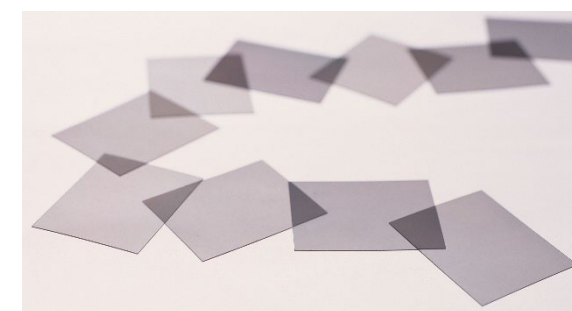


ICT&モビリティソリューション

半導体材料



ディスプレイ関連材料



アドバンストメディカルソリューション

医薬品原薬



再生・細胞医薬

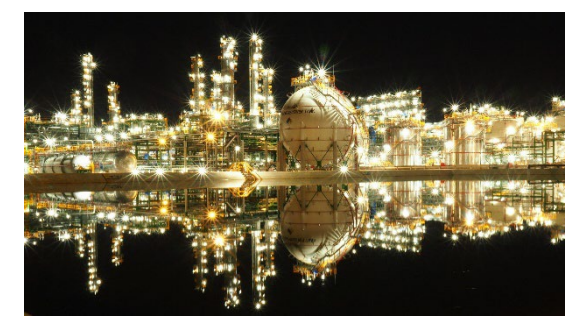


エッセンシャル&グリーンマテリアルズ

多様な石油化学製品



技術ライセンス供与



その他

住友ファーマ (低分子医薬品創薬関連) など

③新成長モデル構築(4事業領域の位置付け)

横並びから脱却。各事業領域の戦略的位置付けを明確化。



成長ドライバー

アグロ&ライフソリューション

ICT&モビリティソリューション

当社の本丸領域と定め、高成長・高収益を目指す



新成長領域

アドバンストメディカルソリューション

次世代の成長ドライバーとすべく、育成を急ぐ



基盤領域

エッセンシャル&グリーンマテリアルズ

環境負荷低減技術による価値創造に舵を切る

③新成長モデル構築(成長分野へ経営資源投入)

投資区分を設定し戦略的に運用。成長ドライバーに約8割をアロケーション。

戦略投資枠 6ヶ年の配分

- ・アグロ&ライフ
- ・ICT&モビリティ

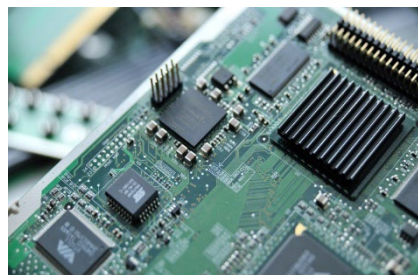
約30%

過去10年平均



75%

2025~2030年

ICT&モビリティ
ソリューション

37%

その他
25%

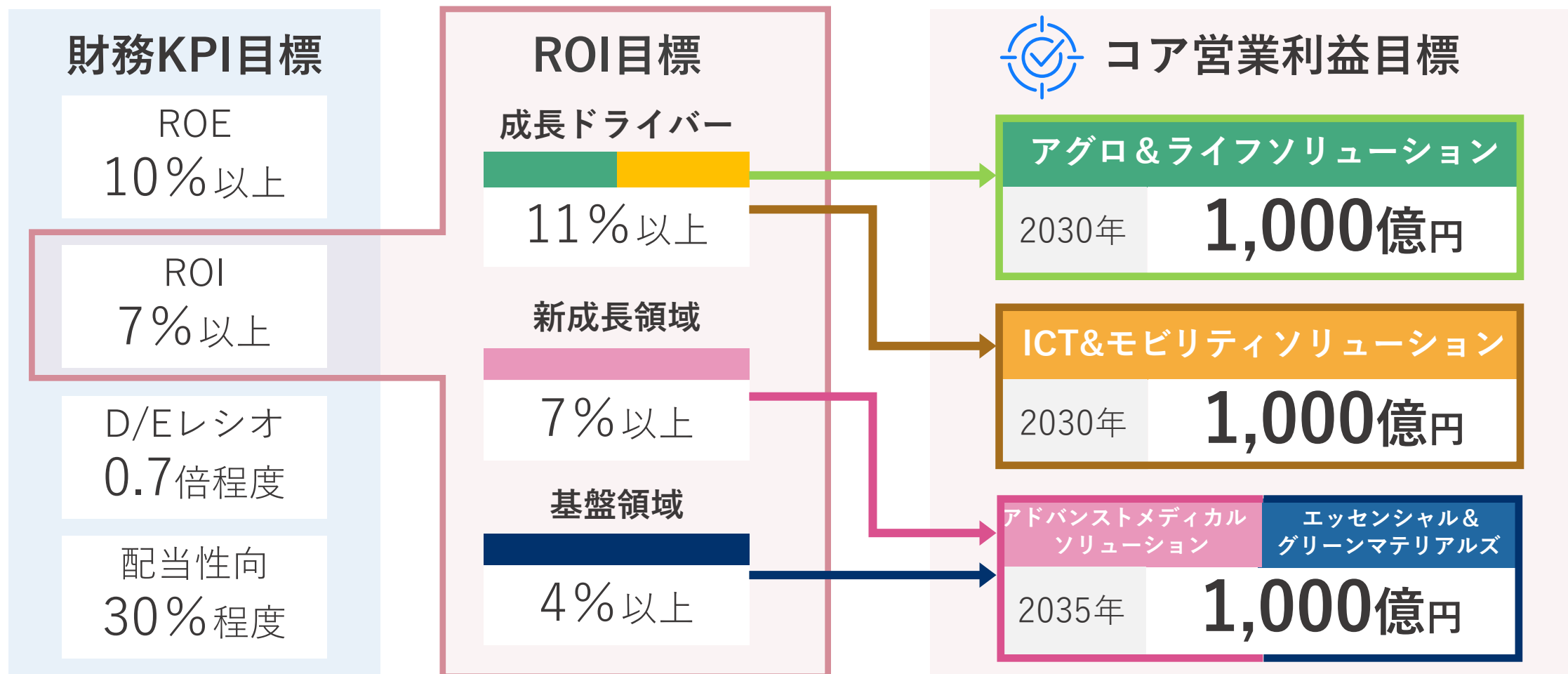
6,900億円

アグロ&ライフ
ソリューション
38%

アグロ&ライフ・ICT&モビリティに、**4,000~5,000億円**を、集中的に資源投入

③新成長モデル構築(長期目標)

2つの成長ドライバーに経営資源を集中投入し、
各々2030年度1,000億円のコア営業利益を目指す。

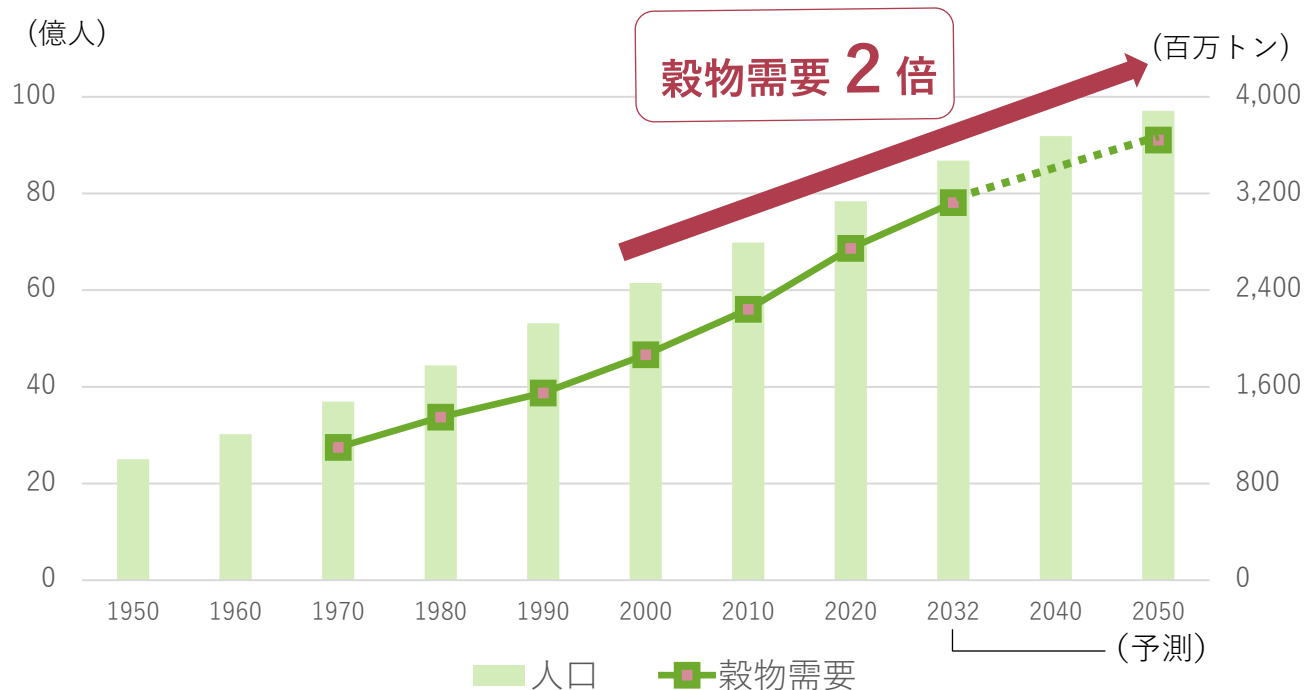


Change and Innovation ~ with the **Power** of Chemistry ~

04

当社の注目事業

世界の人口と穀物需要



- 世界人口は現在の80億人から2050年時点で推定97億人まで増加
- 穀物需要は2000年から2050年にかけて約2倍の36億トンに

穀物需要の増加に伴い、農薬需要も増加

■ リジェネラティブ農業への貢献（化学農薬×バイオリショナル）

バイオリショナル（天然物由来）製品や低環境負荷の化学農薬の使用により、
土壌の健康を修復・改善しつつGHG排出削減や生物多様性を維持向上する農業

化学農薬

持続可能な農業への貢献

フルミ
オキサジン

- ・ 残効性に優れ処理回数を削減

ラピディシル

- ・ 効果発現が早く、低薬量で十分な効果
- ・ 北米・中南米で数年以内に上市予定

バイオリショナル（天然物由来）製品

更なる事業拡大・グローバル機能強化

- ・ サステナブルな農業意識の高まり
- ・ 需要家の安全・安心/品質要求

市場成長率は、年**10%**以上



※ボタニカル（植物性）製品含む

■ 収率向上による食糧増産への貢献

インディフリン

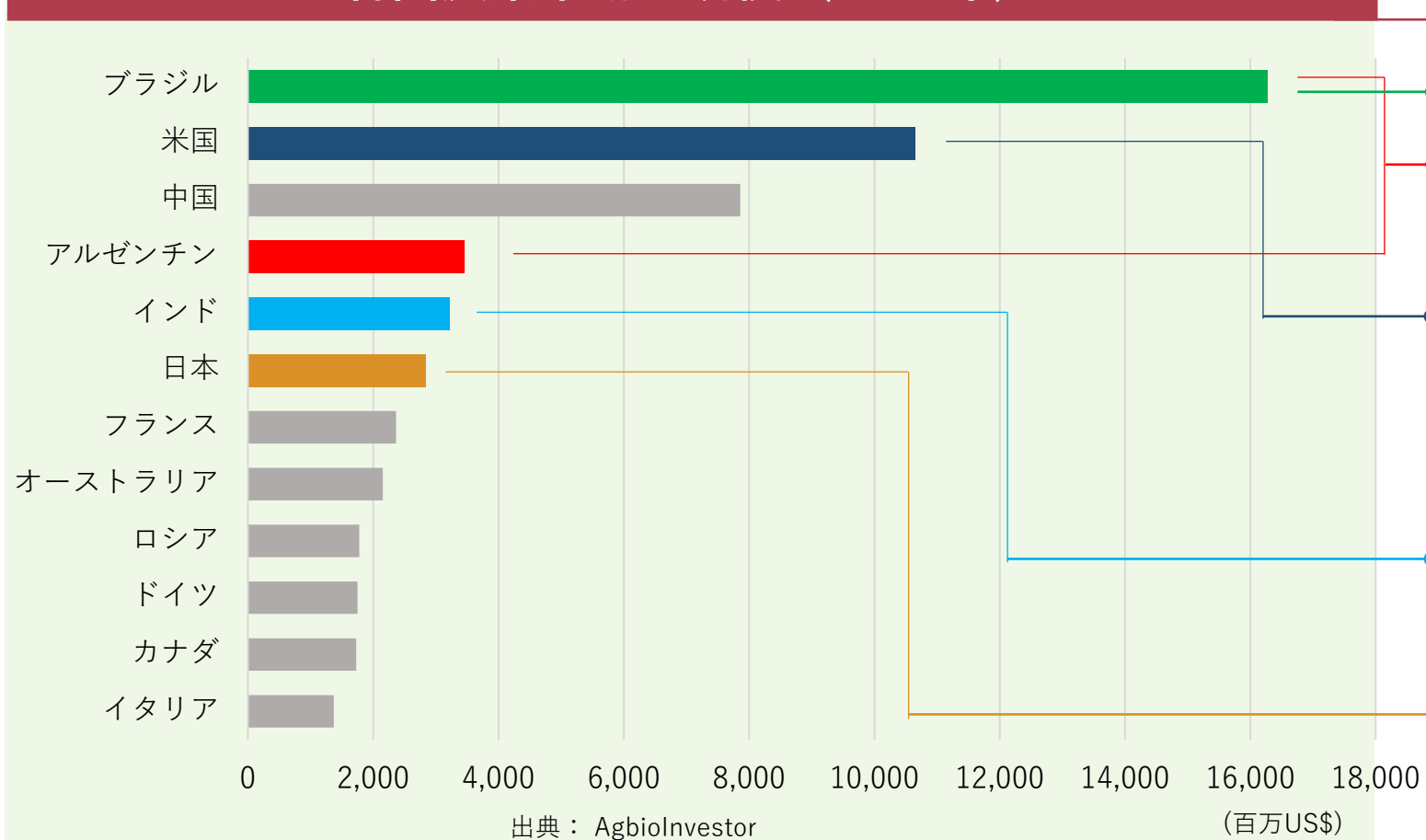
- ・ 大豆さび病向け殺菌剤
- ・ 最大市場のブラジルで2022年上市

拡充したグローバル販売網を活用し
更なる販売の拡大へ



その地域に合った製品開発、顧客ニーズへ即応できる体制を構築

各国農薬市場の規模（2023年）



当社の取り組み

- 2022 インディフリン上市
- 2020 ニューファーム社の南米子会社取得
- 2018 バイオラショナル研究施設を設立
- 2023 天然物由来の農業資材会社 FB Science社を買収
- 2016 農薬事業会社のエクセルクロップ社買収
- 2019 同社と住友化学インド社を統合
- 2020～ 国内グループ会社再編 & 事業強化

末端市場



TV/パソコン



スマートフォン

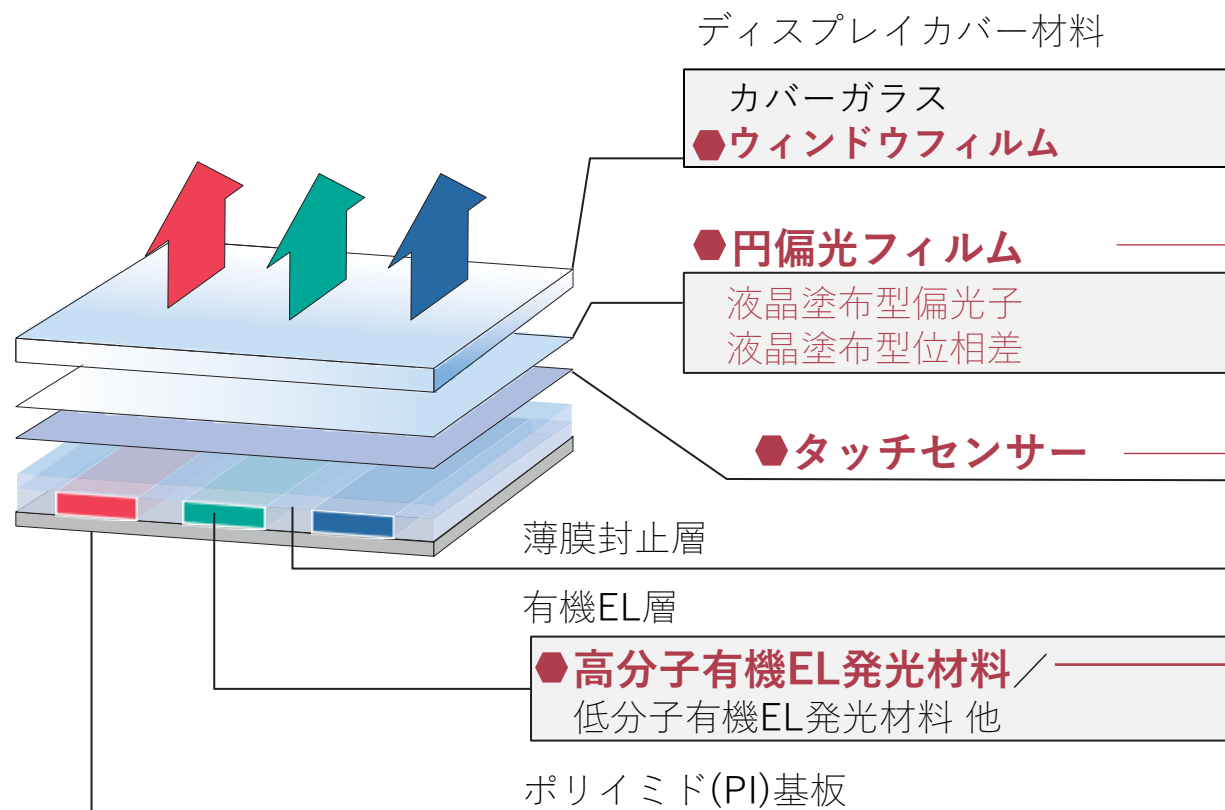


自動車



通信基地局

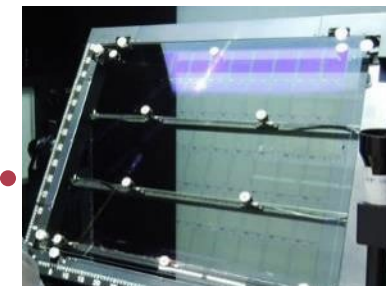
OLEDパネルの構造



褐色：当社製品



ディスプレイからの光の反射を抑え、
有機ELディスプレイの美しい発色を実現



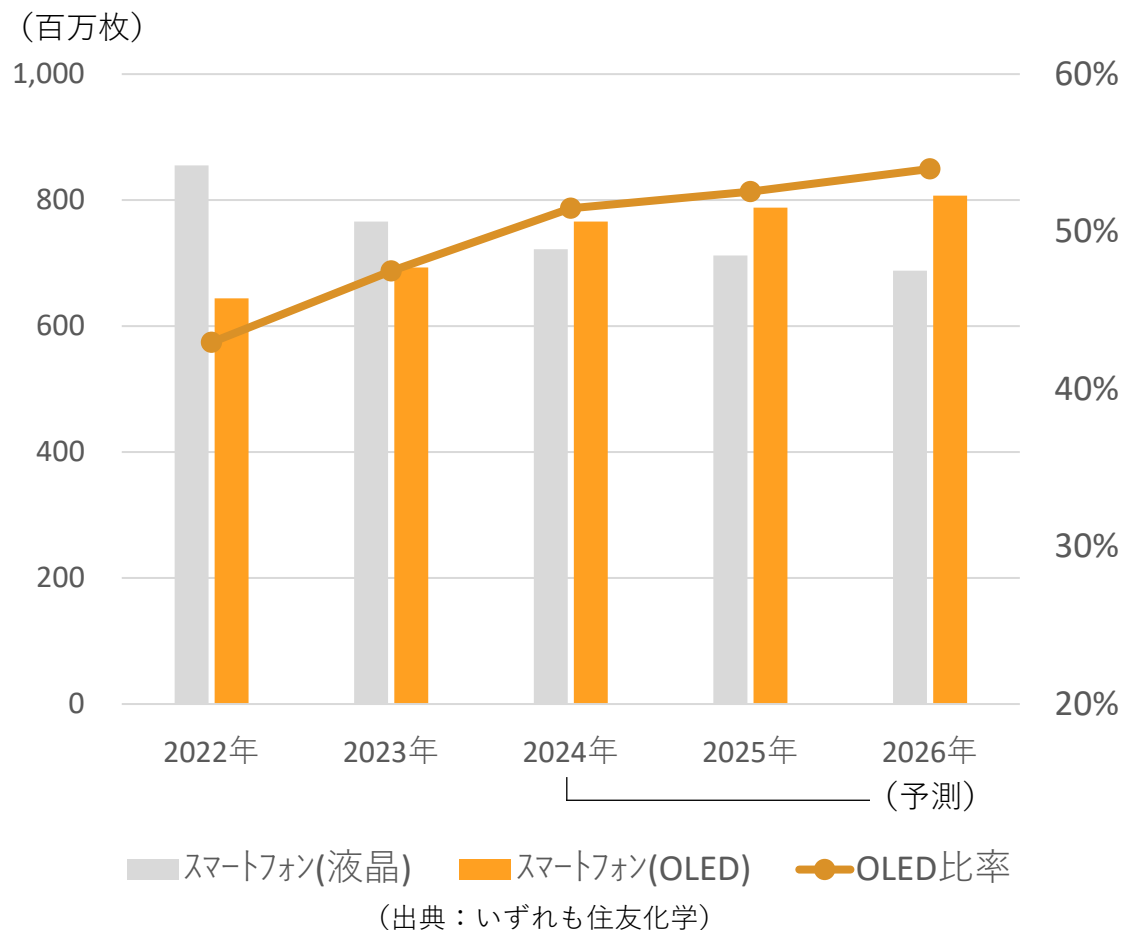
スマートフォンなどに搭載される
位置入力部品



大面積有機ELディスプレイの
画素形成に適したインク材料

自社核心技术を活かした競争優位性を維持

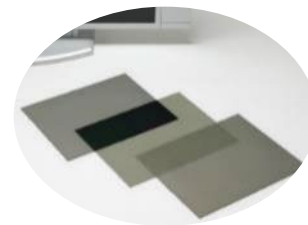
スマートフォン用パネル出荷枚数



当社の強み

独自材料

- ・ 太陽光や照明などの光の反射を防止
- ・ どの角度から画面を見ても、色が変わることなくはっきりとした黒色を実現



既存高付加価値分野でのシェアを確保
新たな材料需要の取り込み

近年の取り組み

成長が期待される次世代ディスプレイや車載向けにも注力



各種半導体



ロジック
(プロセッサ等)

メモリ
(DRAM, NAND等)

パワーデバイス
(電力変換)

高周波デバイス
(無線通信の信号増幅)

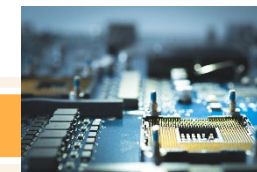
半導体製造工程

前工程



- ・シリコンウェハ上に電子回路を形成

後工程



- ・シリコンウェハから半導体チップを切り分け、パッケージング

主な当社製品

フォトレジスト

- ・前工程での、電子回路形成用の感光性樹脂
(液浸ArF、EUV等)



半導体用ケミカル

- ・各工程の洗浄などに使用される高純度薬品
(硫酸、過酸化水素水、安水、IPA等)

前工程の微細化だけでは、
デバイスの高機能化が困難

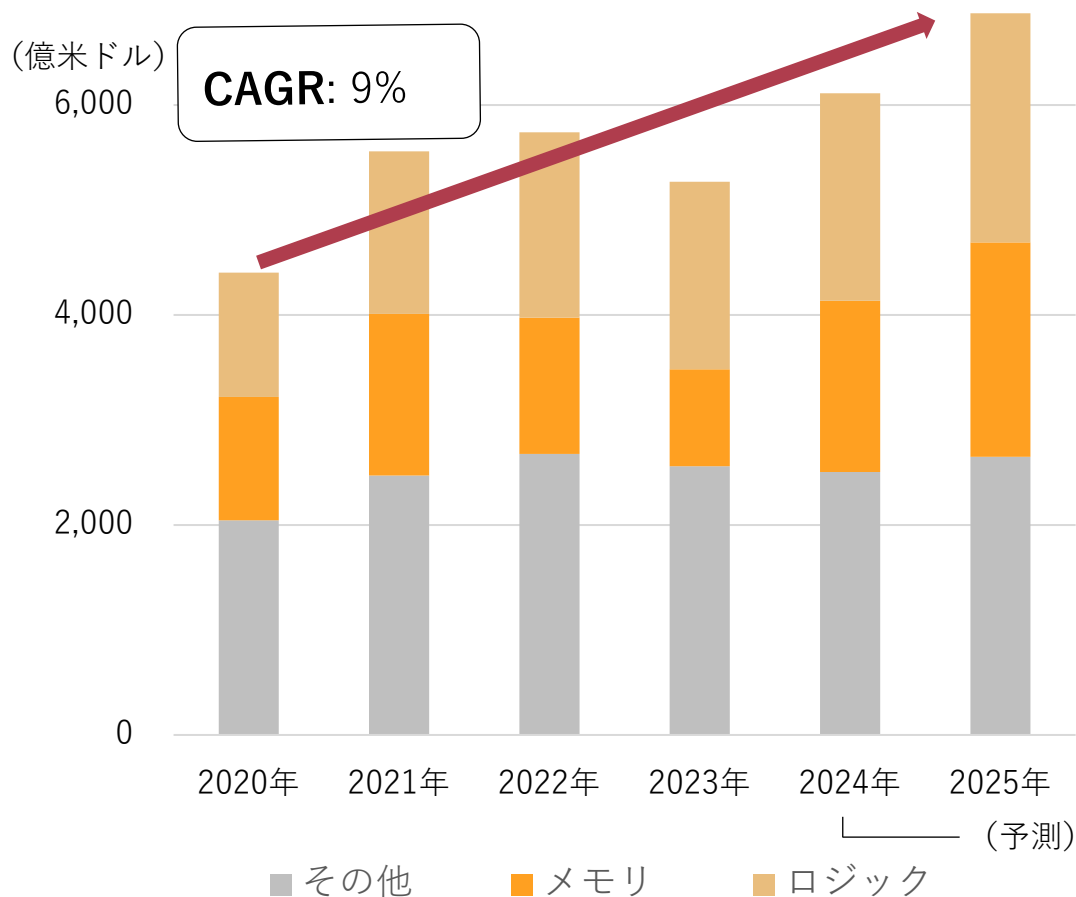
後工程の重要性増

有機分子レジストにより、
次世代EUVでトップを目指す

技術転換期にある
半導体後工程材料に積極参入

市場拡大に対応した事業機会を獲得

半導体市場規模推移



(出典：WSTS(2024年6月4日付レポートより当社作成)

当社の強み

- ・ケミカル設計能力と高純度ケミカルで培ったノウハウ
- ・幅広い材料設計と有機合成技術により次世代ニーズに対応
- ・高機能材料と加工プロセス技術を融合し顧客価値提供

今後の収益拡大領域

半導体用ケミカル

- ・韓国新工場
- ・テキサス新工場

先端半導体材料

- ・次世代EUVレジスト
- ・液浸ArFレジスト

後工程材料の開発加速

- ・配線材料
- ・パッケージ材料
- ・機能性ケミカル

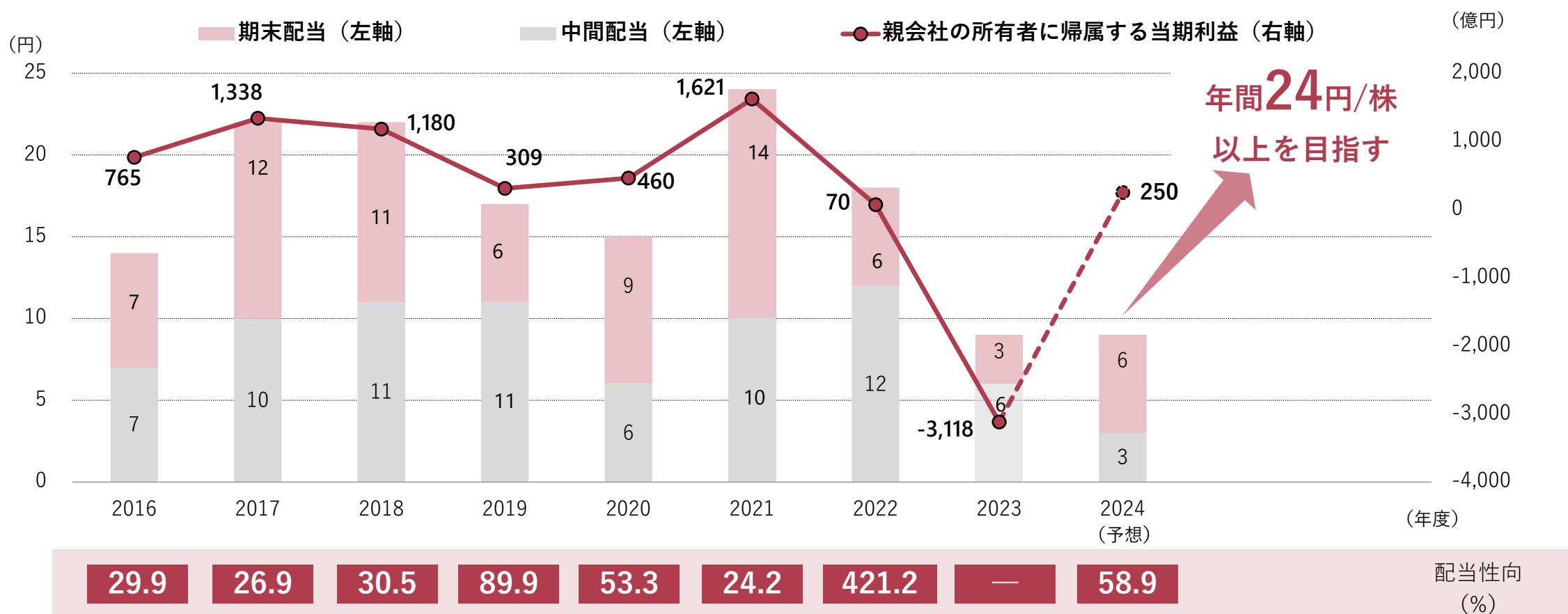


Change and Innovation ~ with the **Power** of Chemistry ~

05

終わりに

2024年度は業績V字回復実現も、財務体質強化を優先し、配当は年間9円で据置き。



まずはV字回復必達。その後は、財務基盤の強化とともに再成長軌道へ回帰。

短期集中業績改善策

新しい成長モデルの構築

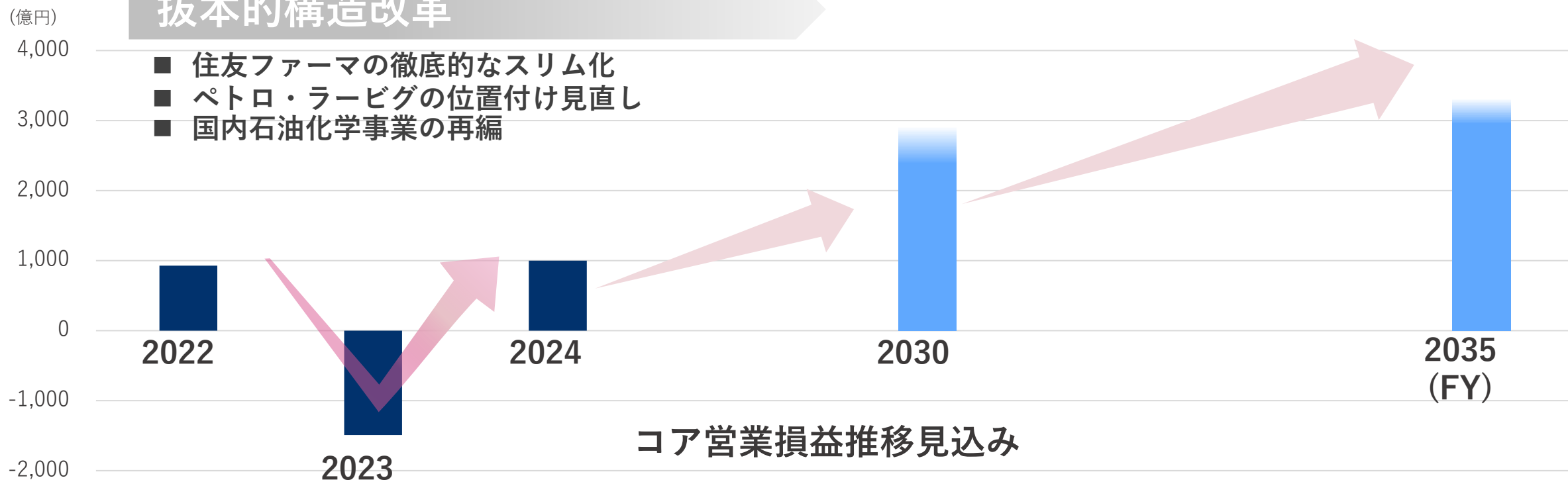
- 農業関連とICT関連へ経営資源集中
- 財務基盤の強化

さらなる成長へ

- 環境負荷低減型事業の社会実装(農業含む)
- 再生・細胞医薬事業の本格展開

抜本的構造改革

- 住友ファーマの徹底的なスリム化
- ペトロ・ラービグの位置付け見直し
- 国内石油化学事業の再編



2024年10月 上期決算および経営戦略説明会

全体戦略

2024年12月 事業戦略説明会

成長ドライバーの戦略

2024年12月 IR説明会

本日

2025年3月 中期経営計画説明会

新中期経営計画公表

当社ホームページ

<https://www.sumitomo-chem.co.jp/>

上部の「株主・投資家情報」より、最新の説明会やIR情報をご覧いただけます。



個人投資家の皆さまへ

<https://www.sumitomo-chem.co.jp/ir/individual/>

個人投資家の皆様に役立つ情報を掲載しています。



当社公式YouTubeチャンネル

https://www.youtube.com/@sumitomochemical_official

コーポレートYouTubeチャンネルを開設しました。
住友化学の最新技術や製品の紹介、企業文化、サステナビリティに関する情報など、幅広いコンテンツを配信予定です。



注意事項

本資料に掲載されている住友化学の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち歴史的
事実でないものは将来の業績等に関する見通しです。これらの情報は、現在入手可能な
情報から得られた情報にもとづき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含ん
でおります。実際の業績等に重大な影響を与えうる重要な要因としては、住友化学の事
業領域をとりまく経済情勢、市場における住友化学の製品に対する需要動向、競争激
化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場において住友化学が引き続き顧
客に受け入れられる製品を提供できる能力、為替レートの変動などがあります。但し、
業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。